

令和7年度 【学校評価】児童アンケート 調査項目

- ①私は、学校が楽しい。
- ②私は、学校の決まりを守っている。
- ③私には、困ったことがあったら相談できる友だちがいる。
- ④私には、困ったことがあったら相談できる先生がいる。
- ⑤私は、係や当番の仕事をやっている。
- ⑥私は、無言清掃をやっている。
- ⑦私は、下駄箱のくつをそろえている。
- ⑧私は、家の人に学校のようすを話している。
- ⑨私は、学校の授業が分かる。
- ⑩私は、自分の考えをもって、他の人の話を聞いている。
- ⑪私は、授業中に自分の考えを伝えている。
- ⑫私は、家に帰ってから勉強をしている。
- ⑬私は、本を読んでいる。
- ⑭私は、自分からあいさつしている。
- ⑮私は、早寝早起きをしている。
- ⑯私は、朝ご飯を食べて登校している。
- ⑰私は、自分の携帯電話・スマートフォンを持っている。
- ⑱私の家では携帯電話・スマートフォンを使うときのルールがある。

令和7年度学校評価 児童アンケート考察

櫛形北小学校

〔1〕評価基準

全体傾向を把握するため、【A】【B】評価を肯定的評価とし、それらの合計が80%を超えている場合は『満足できる状態』と判断した。また、【C】【D】評価を否定的評価とし、それらの合計が20%を超えている場合は、『改善の余地がある状態』と判断した。

〔2〕全体的な傾向

上記の評価基準からすると、肯定的評価が80%を超えている項目は16項目中12項目で、昨年度13項目をやや下回る結果となった。そのうちの6項目が90%以上の高評価であり、こちらも昨年度後期を5項目下回っている。これらことから、全体的には良好な結果ではあるものの、昨年度に比べると課題が増えていると考えられる。

逆に、否定的評価に焦点を当ててみると、その割合が20%を超えている項目は、昨年度から1項目増加して、4項目である。また、昨年度から否定的回答が増加した項目も4項目あり、来年度は全体的な底上げを目指したい。

〔3〕結果の考察

【学校生活】（項目①～④）に関わって

4つの項目全てにおいて昨年度をわずかに下回る結果となったもののすべての項目で高評価であった。多くの児童が楽しく決まり良い生活を送れていることが読み取れるが、学校生活における困りごとを相談できる体制や雰囲気づくりを進めるとともに、「あやめっ子タイム」などでていねいにソーシャルスキルを学習しながら、児童相互の関わる力の醸成に努めたい。また、全ての児童が安心した学校生活を送るための目配りや気配りを、これまで以上に行っていきたい。

【確かな学力】（項目⑨～⑫）に関わって

4項目のうち、「⑪授業中に考えを伝える」の項目を除いた3項目で『満足できる状態』であった。

「⑪授業中に考えを伝える」の項目は昨年度からの課題である。“恥ずかしい”“発表の仕方が分からない”等いくつかの理由が考えられる。『学び合い』が各学年の発達段階に応じて実践され、徐々に定着していくこととSimplerプログラムで改善に努めたい。「⑩自分の考えをもって話を聞く」の項目が依然として高評価なことで併せ、さらに『学び合い』の質的な向上を目指し、自分の考えを他者と伝え合うことが学びの深まりとして実感できるよう、授業改善にも努めたい。

「⑫家に帰って勉強」の結果の肯定的評価が昨年度後期をやや下回った。日々の宿題や自主学習への働きかけとともに、家庭の協力体制の元でタブレット端末を有効に活用することで数値の改善を目指すとともに、さらなる学力の向上につなげたい。

【豊かな心】（項目⑤⑥⑦⑧⑬⑭）に関わって

6項目のうち、4項目で『満足できる状態』となった。

櫛形地区小中学校が小中一貫教育として取り組んでいる「⑥無言清掃」「⑦靴そろえ」の項目はともに高水準だったが、「⑥無言清掃」の項目では昨年度から大きく減少している。児童会の活動ではあるが、教師側も意識して取り組ませる必要がある。

昨年度からの課題である「⑧家で学校の様子を話す」では、昨年度よりも肯定的評価が下がり、22.6%が否定的評価となっている。各種便りを配付するときなどに、それらを材料に児童が保護者に伝えるよう促すなどの工夫を継続していきたい。

「⑬本を読む」の項目は、『改善の余地がある状態』となった。読書のおもしろさや重要性を伝えるために職員によるお勧めの本の紹介（読み聞かせ）や児童が好きな本を投票するなど、地道に読書教育を充実させ、読書タイムも含めてさらなる定着を目指したい。教師の取組と合わせて改善をしていきたい。

「⑭あいさつ」の項目は、肯定的評価が高い結果が出た。児童会活動の「あいさつ運動」や「小中連携あいさつ運動」等の取り組みの成果であるが、日常的に自分からあいさつができる児童を目指してさらに指導を重ねたい。

【健やかな体】（項目⑮⑯）に関わって

「⑮早寝早起き」の肯定的評価は73.8%で、昨年度よりも減少してしまった。26.2%の否定的評価の児童は、十分な睡眠がとれていないと考えられ不安が残る。このアンケートからではわからないが、慢性的に睡眠不足になっている児童がいないか、注意深くかわっていききたい。

「⑯朝ご飯」の項目では、肯定的回答が昨年度からわずかに減少して93.5%であり、【D】評価「食べていない」と回答した児童も3.0%おり、注意が必要である。

育ち盛りの児童に健やかな体の成長を遂げてもらうためにも、保護者の協力なしでは児童の健康な生活は保てない。再度、「早寝・早起き・朝ごはん」の家庭への啓発を行いたい。

【その他】

〔項目⑰⑱に関わって〕

昨年度後期と比べて携帯電話・スマートフォンの所持率は0.6ポイント増加しているが、ルールを設けている家庭も3.6ポイント増加している。教育を語る会で「ネットとの付き合い方」を開催したことも増加の一因だと考えられる。

便利な情報端末でも、使い方を間違えると、自らの成長を損なったり大きなトラブルに巻き込まれたりしてしまう。携帯電話・スマートフォンを与えている保護者が、児童とルールを決めて守らせていく必要がある。来年度も継続して、学習用タブレット端末の効果的な使い方と併せ、学校と家庭が連携して情報モラルの徹底を図っていききたい。

令和7年度 【学校評価】職員自己評価アンケート 調査項目

- ①あなたは、学校教育目標に基づき、学校や児童・生徒の実態に即した教育実践を行っていますか。
- ②あなたは、P（計画）D（実行）C（確認）A（改善）のサイクルで、教育活動の向上に努めていますか。
- ③あなたは、教職員間において報告・連絡・相談に努め、協力的な取り組みをしていますか。
- ④あなたは、危機管理（防犯・防災・事故等）マニュアルを理解し、指導していますか。
- ⑤あなたは、校務分掌で任された業務に積極的に取り組んでいますか。
- ⑥あなたは、校内研に主体的に関わっていますか。
- ⑦あなたは、諸会議に積極的に参加していますか。
- ⑧あなたは、教材・教具（ICT 機器を含む）を効果的に活用する授業を行っていますか。
- ⑨あなたは、児童・生徒が積極的に読書活動に取り組むよう指導していますか。
- ⑩あなたは、授業の始めに児童・生徒に授業のめあてを示していますか。
- ⑪あなたは、授業や単元の終わりに、児童・生徒がめあてを達成しているかを評価していますか。
- ⑫あなたは、児童・生徒理解のために、日頃から様々な方法でコミュニケーションを図っていますか。
- ⑬あなたは、諸問題（いじめ・不登校等）の早期発見・早期対応に努めていますか。
- ⑭あなたは、児童・生徒の規範意識や道徳性を育む指導に取り組んでいますか。
- ⑮あなたは、児童・生徒が進んであいさつするよう指導していますか。
- ⑯あなたは、特別支援教育の理念を理解し、個に応じた関りをしていますか。
- ⑰あなたは、学校の教育活動について、おたよりやホームページを通して保護者や地域に広報していますか。
- ⑱あなたは、教育活動の中に地域の人材や施設を活用し、地域の教育力を生かす指導を行っていますか。
- ⑲あなたは、対話を意識した『学び合い』を授業に取り入れていますか。
- ⑳あなたは、深い学びになるよう、課題や発問の工夫をしていますか。
- ㉑あなたは、Slimple プログラムの目的意識を理解して、指導に取り組んでいますか。
- ㉒あなたは働き方改革を意識して、積極的に業務改善に取り組んでいますか。

令和7年度 職員による学校評価 考察

櫛形北小学校

〔1〕評価基準

全体傾向を把握するため、【A】【B】評価を肯定的評価とし、それらの合計が80%を超えている場合は『満足できる状態』と判断した。また、【C】【D】評価を否定的評価とし、それらの合計が20%を超えている場合は、『改善の余地がある状態』と判断した。

〔2〕全体的な傾向

上記の評価基準からすると、「⑨読書活動」を除く21項目で【A】【B】の合計が80%を超える結果となった。また【A】【B】の合計が100%であった項目は、前年度を上回り、14項目であった。

このことから、全体的として良好な状況に向かっており、学校として改善に取り組むことができたと言える。

〔3〕結果の考察

【学校経営・学校運営への参画】（項目①～⑦）に関わって

「⑥校内研」以外のすべての項目で、【A】【B】の合計が100%であった。この結果は、多くの職員が、目指す学校教育目標の意味を一つ一つ確実に理解し、目標達成の実現に向かう取り組みが定着したといえる。また、職員一人一人が各自の分掌や役割を十分に理解し業務に専念できているのは、日常的な取り組みやこれまでの行事を通じて、校長を中心とした組織が十分に確立したことによるものである。

「⑥校内研」の項目で【C】評価があるのは、本年度から市指定研究が始まったことにより研究が受動的になり、「主体的に関わる」といった部分が弱く感じてしまったからではないだろうか。来年度に向け、研究主任を中心として研究を進めることはもちろんであるが、さらに一丸となって主体的に取り組めるよう努めたい。また、研究推進委員会で「あやめっこタイム」担当や「教研推進委員」担当など分担し、研究主任が指定研究に集中できるような環境を整えることも考えてみてはどうか。

【学習指導】（項目⑧～⑪）に関わって

「⑧ICT活用」において【A】評価が大幅に増加していることから、授業改善に向けて意識がさらに高まっていると言える。しかし、「⑨読書活動」においては、【C】評価が25%と厳しい評価になっている。北小タイムや読書の時間に先生のおススメの本や、自身が子供のころ読んでいた本を紹介するなど、読書の楽しさを伝える活動に取り組んでいきたい。司書による掲示物が充実しているので、職員室前の掲示物の紹介なども行ってほしい。「⑩めあての提示」と「⑪評価」の項目も肯定的回答100%ではあるが、昨年度に比べ【A】評価は大幅に減少している。自己評価を機に、さらなる意識改革に努め、授業改善につなげていきたい。

【生徒指導・生活指導】（項目⑫～⑯）に関わって

昨年度と同様に、「生徒指導・生活指導」に関する5つの項目は全て肯定的評価100%という結果である。これは、継続的に児童理解に努め、日々職員が一人一人に寄り添い、共感的・受容的な対応を心がけている成果である。ただ、「⑬諸問題の早期発見・早期対応」と「⑯個に応じた関わり」の2項目は今日的な課題でもあり、本校の実態も踏まえ、さらに専門性を高められるよう全職員で努めていきたい。とりわけ様々な特性をもつ児童への対応は、一人一人の教育的ニーズを把握しつつ、その持てる力を高めて生活や学習上の困難を改善または克服するための、適切な指導及び必要な支援が

求められる。本校では、個々の児童に必要な支援を行うための情報共有を密に行い、教務職員を含めたチームでの対応が図られている。

早急に結果を求めるのではなく、長期的な視点で支援を継続するとともに、職員集団の専門性をさらに高めるための手段として、ケース会議や研修資料の共有などを充実させていきたい。

【保護者・地域との連携】（項目⑰⑱）に関わって

「⑰情報の発信」は昨年度と比べ【A】評価が大幅に減少している。この部分は、保護者アンケートの肯定的回答が96%となっており、毎月発行されている各学年便りの内容が充実していることが要因と思われる。先生方は定例発行以外のものを出さないことで厳しい評価をつけているかもしれないが、続けていることに自信を持って、今後も内容の充実したたよりを発行していただきたい。

クロームブックでの情報発信についても、今後検討していければよい。

また、「⑱地域人材・施設の活用」においては、【D】評価がなくなったものの、昨年度に比べて肯定的評価が減少した。これは、小笠原流礼法の授業も含め、修学旅行や社会科見学などで市文化財課などから効果的な支援を継続的に受けることができおり、児童の学びに必要な不可欠なものとして定着しているからだと考えられる。

更に今年度は協議体の方々や学校応援団の方々にも授業支援や教材作成に関わっていただくことができた学年もあり、地域人材については活用の幅が増えた。来年度は、今年度有効に活用できたものを継続し、保護者や地域との連携をさらに工夫するとともに、地域の施設の有効利用も模索していきたい。

【小中一貫教育】（項目⑲～㉑）に関わって

3つの項目すべてにおいて高い肯定的評価となった。その中でも、「⑲『学び合い』」と「㉑発問の工夫」は市指定研究の「学びの質向上」に直結する内容である。今後も実践を重ねて、対話や深い学び、協働的な学習につなげていき、来年度の本公開に備えていきたい。

「㉑Simpler プログラム」は、学び合いの基礎基本となる大切な“力”を育むものであり、小中一貫教育の大きな柱でもある。今年度、指導者を変えて取り組んだことで他学年の様子も把握できるなど、教師側に別の側面でのメリットがあることが分かった。

最後の項目「㉒働き方改革」は昨年度に比べ高い肯定的評価となった。決して業務量が少なくなっているわけではないが、先生方の意識と努力で改革が進んでいることに感謝したい。

また、行事や学年の活動などを共有できる状態で残し、引き継いでいくことで効率化への工夫がされていることなど、先生方の努力の成果が極めて大きく影響している。データの見える化は来年度も継続していきたい。

令和7年度 【学校評価】保護者アンケート 調査項目

- ①お子さんにとって、学校は楽しいところですか。
- ②お子さんは、授業の内容が分かっていますか。
- ③お子さんは、朝ごはんを食べて登校していますか。
- ④お子さんは、家庭学習（宿題や塾・家庭教師との勉強を含む）をしていますか。
- ⑤お子さんには、困ったことがあった時に相談などのできる友だちがいますか。
- ⑥学校には、お子さんのことで相談できる先生がいますか。
- ⑦授業参観や運動会・音楽会（学園祭や合唱祭）などの学校行事は、お子さんの様子を知る機会となっていますか。
- ⑧学校（学年・学級）だよりやホームページから教育活動の様子を知ることができますか。
- ⑨学校は、保護者・地域住民からの声に耳を傾けていますか。
- ⑩学校には教育活動に適した施設・設備が整っていますか。
- ⑪ご家庭では、家族で互いにあいさつをするようにしていますか。
- ⑫お子さんは自分の携帯電話・スマートフォンを持っていますか。（「持っている」と答えた御家庭は⑬へ）
- ⑬携帯電話・スマートフォンを持たせている場合、お子さんと使い方についてルールを決めていますか。
- ⑭ なんでもお気づきな点がありましたらお書きください。

令和7年度学校評価 保護者アンケート 考察

櫛形北小学校

〔1〕評価基準

全体傾向を把握するため、【A】【B】評価を肯定的評価とし、それらの合計が80%を超えている場合は『満足できる状態』と判断した。また、【C】【D】評価を否定的評価とし、それらの合計が20%を超えている場合は、『改善の余地がある状態』と判断した。

〔2〕全体的な傾向

上記の評価基準からすると、11項目中10項目で肯定的評価の合計が80%を超えるとともに、そのうち5項目が90%を超える肯定的な評価になっており、いずれも昨年度同様に満足できる状況にあると判断できる。また、【C】【D】の合計が20%を超えている否定的評価の項目は1つもないのだが、8項目にわたり【E】「分からない」という回答があり、児童の生活の様子をつかみ切れていない保護者の実態も垣間見える。特に「⑤相談できる友達」「⑨学校の傾聴」では、いずれも昨年度に比べて【E】回答の割合がやや増している。

〔3〕結果の考察

【学校が楽しいか】（項目①）に関わって

肯定的評価が93%であり、多くの保護者が子どもにとって学校は楽しいところだと評価している。しかし否定的評価や【E】「わからない」という評価をする保護者もいる。家庭での子どもとの関わりからの評価と思われるが、全ての子どもに「学校は楽しい」と言ってもらえるよう日々努めたい。

【子ども理解（学習・友達）】（項目②④⑤）に関わって

「②授業内容の理解」については肯定的評価が86%と昨年度と同程度の評価であるものの、否定的評価が13%にまで増加した。「④家庭学習」については肯定的評価が88%という結果となり、家庭学習の充実が浸透していることが分かる。【E】回答が0%となっていることから、保護者の方々の協力によることも大きいと言える。

「⑤相談できる友だち」では、【E】回答（11%）の結果が表しているように、この項目でも家庭ではなかなか把握しにくい状況があると考えられる。しかし、小中一貫教育で取り組んでいる「Simple プログラム（あやめっこタイム）」や本校の校内研究で取り組んでいる「学び合い」にこつこつと取り組みながら、児童相互の結びつきを強めていくことで、困ったときに助け合える関係づくりにつなげていきたい。

【家庭・地域との連携】（項目⑥⑨⑩）に関わって

「⑥相談できる先生」は肯定的評価が昨年度をやや上回って83%となった。これからも、児童や保護者とのコミュニケーションを大切にして教職員への理解を深めてもらうとともに、信頼される教師集団を目指したい。

「⑨保護者・地域住民からの声」の肯定的評価は８９％であり、昨年度の結果をやや上回り、否定的評価が大きく減少した。学校の教育活動を進める上で、家庭や地域との連携は必要不可欠であり、充実した教育活動や児童が安心して学校生活が送れるようにするためにも、家庭や地域から考えを寄せてもらう機会を増やしていくとともに、家庭や地域からのご意見にしっかり耳を傾けながら教育活動を進めていきたい。

「⑩教育活動に適した施設・設備」の項目についても肯定的評価が増加しており、引き続き施設・設備の修繕要望を適切に行っていくとともに、施設・設備を大切に使用していきたい。

【生活習慣】（項目③⑪）に関わって

「③朝ごはん」の項目では肯定的評価９６％と、昨年度に比べて減少しているものの、引き続いてとても高い肯定的評価が得られている。今後も継続した食指導、規則正しい生活習慣づくりの指導を心がけていきたい。また、否定的評価の家庭も数％あり、朝食の大切さを発信していく必要がある。

「⑪家族で互いにあいさつ」の項目も肯定的評価９９％と高評価を得ている。学校や地域のあいさつ運動だけでなく、家庭と連携した実践になっている。あいさつは小中一貫教育としても取り組んでいる項目なので、中学校とも協力しながらさらに充実させていきたい。

【情報発信】（項目⑦⑧）に関わって

「⑦学校行事は、児童の様子を知る機会となっているか」の肯定的評価は９９％と昨年度よりも高い結果であった。今後も、児童の様子や学校の教育活動を伝える場として、行事に向かう児童の様子なども発信しながら、学校行事の中身がさらに充実するように努めたい。

「⑧各種通信やホームページから教育活動が伝わるか」についても肯定的評価は９６％と満足できる結果であった。実際に足を運んでもらうことと合わせ、様々な媒体を通じて情報を発信することが学校の理解につながると考えられる。信頼される学校づくりのために、これからも児童の様子や学校の様子を発信するように努めたい。

【情報端末の所持と使用】（項目⑫⑬）に関わって

スマートフォンなどの所持率は、昨年度より増加して３９％で、情報端末使用ルールの有無については、８６％で昨年度をやや下回った。タブレット端末の持ち帰りに合わせたルールについて、児童に指導するとともに家庭と共有しながら進めてきたこと、スマホやゲームとのかかわり方を学ぶ教育を語る会を実施することができたことがルール定着の一因と考えられる。正しく情報端末を使うことができるよう、今後も継続して家庭と連携していきたい。